

# act 14

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト

OCTOBER 2013



[能ファッション]

# NOH Fashion



# 世紀を超えて語りだす。 能 × ファッション の世界。

新しいもの、古いもの、ほかとは違うもの、おそろいのもの。さまざまなものを身に纏うことで、人びとは言葉では伝えられないメッセージを世に発信してきました。たとえば狩猟民族の世界では珍しい毛皮を着ている人ほど権力を持つことを表し、ロングスカートしか許されなかった社会でミニスカートを流行らせたデザイナーは、見た目のかわいさ以上に「女性をもっと自由に」というメッセージを服に込めていました。

600年以上前から続いている能は、演者の舞ひとつ、舞台の装飾ひとつとっても、いっさいの無駄はありません。もちろん、能舞台の衣装である「装束」も例外ではありません。古くは300年前の装束を身に付けて舞うこともある能。いまでも多くの人々の心を打つこの芸能の衣装に、いったいどんなメッセージが込められているのか。能からみるファッションの世界、新しい発見が続々見つかるかもしれません。



# 吉祥

めでたさ、縁起の良さを意味とする吉祥文。  
優雅な姿が好まれ、日本の吉祥文様の中心的存在となった鶴、  
寒い冬のなか、美しい姿を保つ生命力あふれた松竹梅など、  
しあわせが長く続くよう祈りを込めた  
文様を組み合わせています。



春、夏、秋、冬。  
四季の移ろいを教えてくれる動植物に  
感性をかたむける。花や鳥のように美しいもの、  
なにげない野の草までも  
愛おしむ繊細さが日本にはあります。

# 花鳥

# 風水

おだやかな波を半円だけで図案化した「青海波」、  
流れる水の動きをとらえた「観世水」。  
波の文様だけでも日本は200種ほどあるといわれており、  
かたちのないものに名前をつけ、細かな違いを発見する  
楽しさを昔のひとは知っていました。



# シンプルに、美しく。 能装束からの メッセージ。

能を絵画に例えるなら、リアルな具象画ではなく、抽象画に近いと言われています。実在するものをそのまま舞台上に持ち込まず、例えば満開の桜を表現するにもほんの一枝だけを置く。すると観客は、空間の余白に自分なりの満開の花を思い描く。観る人の想像力をかき立てる舞台、それが能の面白さです。そしてもちろん、舞の型や舞台装飾だけではなく、装束にも「省略の美」は生かされています。

能装束は表着、着付け、袴、帯、それぞれに表す身分、年齢、性格までが決まっております。それを知っていれば出てきたときに一目で主役であるシテがどんな人なのか最低限

の表現でわかるようになっていきます。そもそも、能には事細かに決まりごとがあり、だからこそ何世紀も前の物語を伝承し続けることができた芸能です。そんな厳格な芸能ですが、唯一演者の解釈が反映されやすいのが能装束なのです。

この世に恨みを残して現れた女性を悪鬼のように舞うのか、悲しい女として表現するのか。ある程度の決まりはありつつも、演者は自らのメッセージを装束に乗せて、古くからの物語を舞うのです。世紀を超えて、今とつながる能舞台。能装束には昔と今のメッセージが凝縮されています。

## 能 × ファッション

能装束には、見ているだけではわからない発見がたくさん隠されています。ファッションから見る能のみどころをご紹介します。



Traditional Technology

### 職人の思い 三百年先に伝える

舞台衣装のなかでも、能装束ほど豪華で洗練されたものはなかなかありません。文様の美しさ、色使い、織るための技術、染めの技術、絹糸のもととなる養蚕に至るまで、職人の技術と技の結晶となっています。能装束は、江戸期には大名の庇護のもと豪華さが競われるようになり、様式がほぼ確立しました。300年という時を経た現在も使われている装束もあり、能舞台は貴重な装束を見るショーとしても十二分に楽しめます。



### 着物の粋な 着こなし

Dress Styling

たとえば女性用装束の唐織(からおり)。そのまま腰で締めた着流し姿は今でいう「ワンピース」ですが、唐織を腰のところで折りこむと、「ジャケット」の役割に。活動的な外出着を表した着付けなのだそう。さらに大口というワイドパンツともいえる袴に「ロングジャケット」のように着付けるとセレブで高貴な役どころに。襟や脇からのぞく摺箔(すりばく)という内着にも物語を予感させる文様をアクセントとして着こむなど、さすがの着こなしが見られます。

## 鱗文は鬼の目印

恋しい男に逃げられた女が蛇になって追いかけて、隠れた鐘ごと男を焼き殺す…そんな話を下敷きに展開する「道成寺」。シテ(主人公)は最初、旅の女性の装束を着ていますが、よくみると胸元から▲の文様が見えています。この文様は蛇の鱗を表す鱗文。三角形を連続した文様は古来、病魔を表す不吉なものとして用いられてきました。美しい娘からチラリとのぞく邪気。ほんのわずかな文様で、舞台をドラマチックに仕立てあげます。



Message from Design

# 能装束は 日本文化の タイムカプセル

## 職人の技、繊細な感覚の結晶です。

能は600年以上の歴史がありますが、能舞台に使われている小道具には、日本文化の歴史を脈々と受け継いだ職人技が受け継がれています。見逃がさずにしっかりチェック！

### 扇(おうぎ)

能楽での扇は舞台の華。1本の扇を作るのに、23の工程と1ヶ月もの日数がかかり、五流宗家それぞれ文様・柄などが異なる。扇骨である竹の繊細な加工、限られた扇面の狭さを感じさせない広がりのある絵付けなどは職人の技が光る。

### 能面(のうめん)

面(おもて)を作ることを、「面を打つ」という。およそ七十から八十種類あるといわれる中世以来の古面を写し取る形で伝承。打ち始める前の3日間ほど何本ものノミを研ぎ、一面を作り上げる集中力を高めていくという。

### 足袋(たび)

能では足の動きをハコビといい、ハコビによって演者の力を知ることができるといわれるほど重要な要素。その足に履かせる足袋はきつすぎず緩すぎず、オーダーメイドで作られる。足袋の専門店では演者の足形が保管され、アスリートのシューズのように特注品が制作されている。

### 組紐(くみひも)

奈良時代、仏教の影響で伝来した組紐。「角打ち紐」と平たく編まれた「平打紐」、丸い立体感のある「丸打紐」などに分けられる。平安時代、京組紐として優雅な芸術品へと発展、組み方だけでも何千通りとある。色の使い方で柄の見え方も変わり、繊細な色使いは芸術的。

## 能の文様

## Noh Pattern

すべてがシンプルで、極限までそぎ落とされた表現を追求する能。装束の文様ひとつ取っても、ちゃんとした意味が込められています。用途も美しさも兼ねそなえた、能装束の文様に注目してみます。



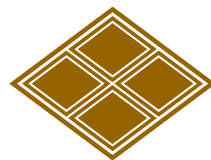
毘沙門亀甲  
(びしゃもんきっこう)

直線的で男性的な力強さを感じさせるこの文様は、仏法を守護する四天王、毘沙門天の甲冑につけられている。神格的な役のときに用いる。



七宝  
(しっぽう)

円＝円満なことが重なり連なるという意味で、縁起のよい文様。ちなみに七宝の七とは仏教の金・銀・珊瑚などの7つの財宝のこと。



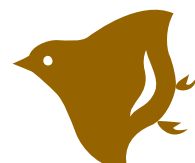
業平菱  
(なりひらびし)

名前の由来は平安時代の歌人で、美男子と有名だった在原業平。業平を題材にした能「井筒」ではこの文様の装束を着る。



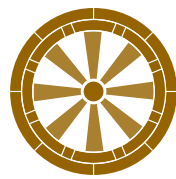
蝶  
(ちょう)

優雅さや可憐さを兼ねそなえ、幼虫からさなぎ、蝶へと変化する不思議さや、不死のイメージがあることから、武士に大人気の文様。



千鳥  
(ちどり)

群れをなしていることが多い水辺の鳥を描いた文様。現在よくみるデザインのかわいげな千鳥は、江戸時代に流行したものの。



源氏車  
(げんじぐるま)

平安時代の貴族たちの乗り物といえば牛車。その車輪部分だけを文様にしたのが源氏車で、位の高いことをあらわしている。

## 着物語り

「きものをもっと、手軽に、さらに」をテーマにしたきもの専門店「きらくや」さんに、着物の魅力についてお聞きしました。

### みえないこだわり、こころの変化が楽しい。

着物の魅力ってたくさんあるんですけど、ひとつはコーディネートする楽しさですね。着物と帯、帯からちらりと見える帯揚げ、帯どめ、首元からのぞく半襟。色どりや柄、季節も考えながら組み合わせていきます。裏地だったり、近づかないと見えない文様にもこだわりを持っている人がいて、よく見ないと気づかない、そんな粋な感性が着物には生きているんです。着物は長く着られるので仕立て直したり、染め直したりする楽しさもあります。最近ではスワロフスキーを1,300個ほど付けて欲しいというご注文がありました。着物の素材も洗濯機で洗えるポリエステル製など、日常でも着やすいものがそろっています。昔よりは便利で気楽な着物が増えましたが、やはり準備やメンテナンスが必要なものも。でも、前日から準備をしたり、朝ちよっただけ早起きして着付けをして背筋を伸ばす。帰ってきて手入れする。いつもの生活のリズムにメリハリがついて、物を大事にする心が芽生えるんです。日本の素晴らしい文化を、多くの人に自然に楽しんで欲しいですね。



カフェスタッフ  
本間 千尋さん

この時の着物は淡いグレーの鮫小紋のひとえ。秋をイメージした菊の帯が季節を感じさせる上品でさわやかなコーディネートでした。



抹茶セット(お菓子付き・500円)は目の前で点てくれる本格派。



### きものきらくや

札幌市中央区北6条西11丁目25-2  
TEL 011-271-6685  
営業時間 / 10:00~19:00  
定休日 / 水曜日・年末年始

### きものカフェ 織時(おりとき)

きものきらくや 1F内 TEL 011-271-8777